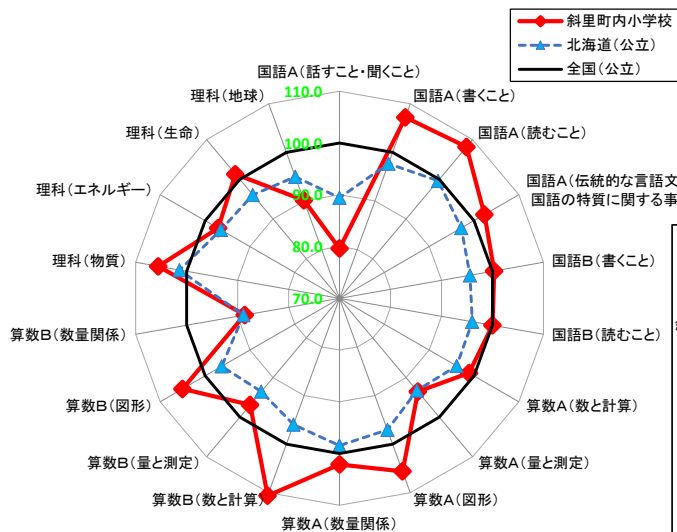


■斜里町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:6、児童数:90名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



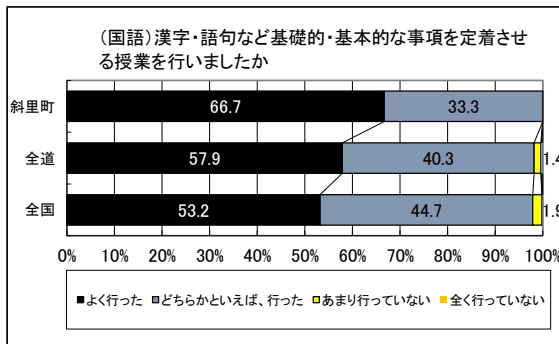
【全国の下位25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合】

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
斜里町	26.6	25.6	18.8	17.8	30.0
全国との差	-2.8	-0.9	-2.9	-7.4	2.6

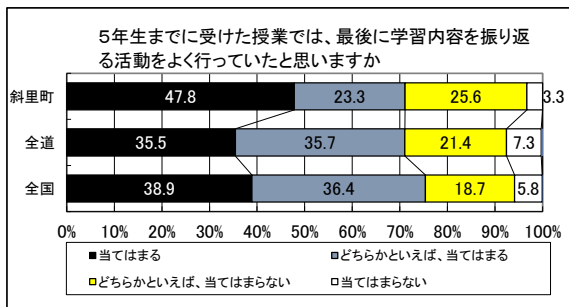
【斜里町の平均正答率】

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
斜里町	72.0	65.2	75.0	45.7	59.8
全国との差	2.0	-0.2	-0.2	0.7	-1.0
全道との差	3.9	2.2	2.7	3.2	0.5

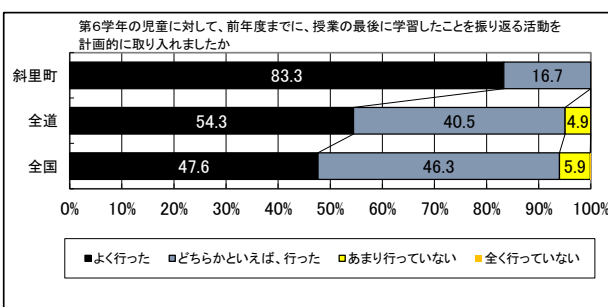
【学校質問紙調査】



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国の下位25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合は、理科以外のすべての教科で全国より少ない。 ○ 国語では、A・Bの「書くこと」「読むこと」、Aの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域において、全国・全道を上回っているが、Aの「話すこと・聞くこと」領域に課題がある。 ○ 算数では、Aの「図形」、「数量関係」、Bの「数と計算」、「図形」領域において、全国を上回っており、それ以外の領域では全国を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校全体で補足的な学習サポートの実施や教育活動支援講師・特別教育支援員を配置し、きめ細かな支援の充実を図ったことにより、前年度と比較して下位層の底上げが図られるとともに、平均正答率も改善されたと考えられる。(前年度、理科は未実施) ○ 国語科において、基礎的・基本的な事項を定着させる授業に取り組んだことにより、A問題の平均正答率が全国平均を上回る結果となったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思うか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童の割合が全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校において、授業の最後に本時の学習を振り返る活動を充実させたことにより、各教科において学習内容の定着が図られたと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業では、最後に学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れたか」の質問に、「よく行った」と回答した学校の割合が全国を上回っている。 	

【斜里町の学力向上策】

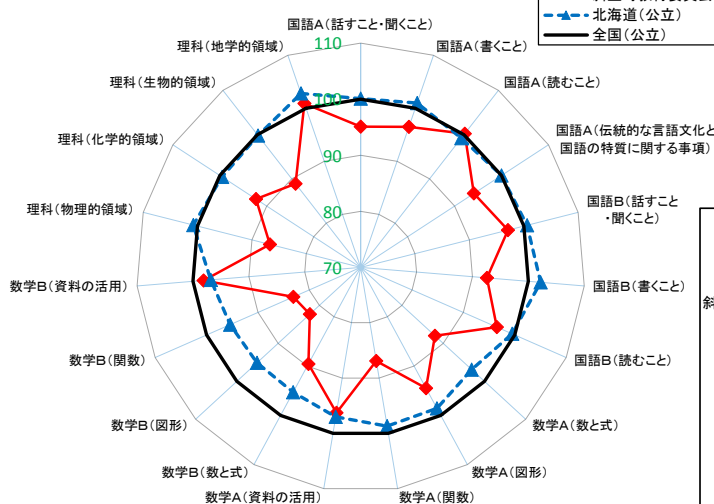
- ◎ 学力向上推進委員会では、学力目標や学校における具体的な取組に基づき、各校へ共通実践を働きかけるとともに、秋田県の先進校を訪問し、優れた取組を各学校に還元する。
- ◎ 学力向上に関する保護者や地域住民向けの講演会を開催し、学校と連携した取組の重要性を働きかける。
- ◎ 教育活動支援講師・特別教育支援員を配置し、下位層を中心にきめ細かな学習支援の充実を図る。
- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果について、斜里町全体の結果を概要報告書として、ホームページ上で公表する。(説明責任)

■ 斜里町内中学校の状況及び学力向上策 (学校数: 2、生徒数: 98名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



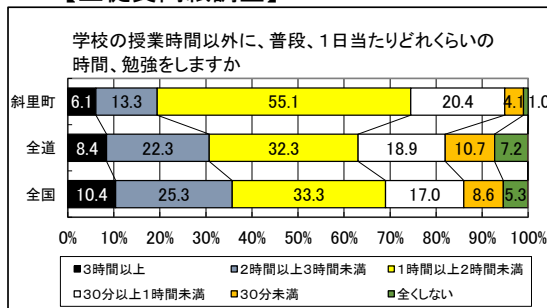
【全国の下位25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合】

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
斜里町	28.5	20.3	34.6	35.7	27.5
全国との差	5.5	-0.4	9.9	6.9	3.6

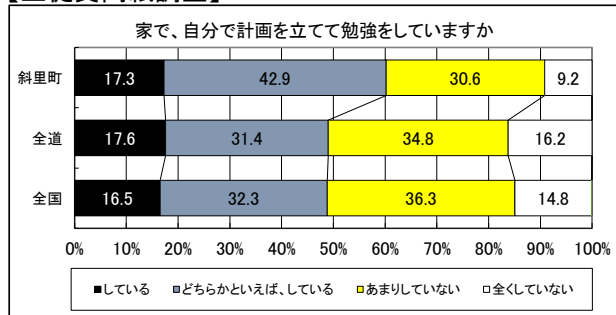
【斜里町の平均正答率】

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
斜里町	72.5	63.6	58.5	36.3	48.6
全国との差	-3.3	-2.2	-5.9	-5.3	-4.4
全道との差	-3.3	-2.1	-4.5	-3.4	-4.7

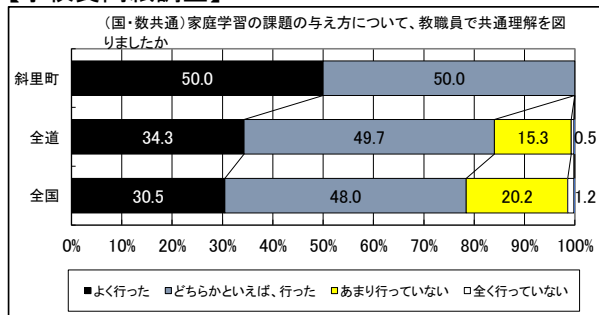
【生徒質問紙調査】



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国の下位25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合は、前年度と比較して国語Aを除いて大きく改善され、国語Bで全国より少ない。(前年度、理科は未実施) ○ 国語Aの「読むこと」領域、理科の「地学的領域」において、全国を上回っているが、他の教科・領域では全国を下回っている。 ○ 平均正答率では、すべての教科で全国を2～5%の範囲で下回っているが、前年度と比較して、国語Aを除いて大きく改善された。(前年度、理科は未実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校全体で補足的な学習サポートの実施や教育活動支援講師・特別教育支援員を配置し、きめ細かな支援の充実を図ったことにより、前年度と比較して下位層の底上げが図られるとともに、平均正答率も改善されたと考えられる。(前年度、理科は未実施)
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家で、自分で計画を立てて勉強しているか」の質問に、「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が全道、全国を上回っている。 ○ 学校の授業以外に、生徒が普段1日当たり勉強する時間の割合は、全道、全国と比較して1時間以上では上回るが、2時間以上では下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の与え方について、教職員で共通理解を図った取組を推進したことにより、家で計画を立てて勉強する生徒の割合が高くなったと考えられる。一方で、学校の授業以外に普段2時間以上勉強している生徒の割合が全道・全国を下回っていることから、勉強時間の確保が課題である。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家庭学習の課題の与え方について、共通理解を図っているか」の質問に、「よく行った」と回答した学校の割合が全国を上回っている。 	

【斜里町の学力向上策】

- ◎ 学力向上推進委員会では、学力目標や学校における具体的な取組に基づき、各校へ共通実践を働きかけるとともに、秋田県の先進校を訪問し、優れた取組を各学校に還元する。
- ◎ 学力向上に関する保護者や地域住民向けの講演会を開催し、学校と連携した取組の重要性を働きかける。
- ◎ 教育活動支援講師・特別教育支援員を配置し、下位層を中心にきめ細かな学習支援の充実を図る。
- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果について、斜里町全体の結果を概要報告書として、ホームページ上で公表する。(説明責任)